

# 第一章 目 次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋創一

東京大学教授 文学博士 佐藤信

## 第一章 江戸時代後期の教育

江戸時代後期の教育

### 第一節 上田藩校の教育

一 文武学校の設立

文武学校「明倫堂」

上田藩文教のはじめ

コラム・明倫堂掲示、演武場掲示

入学資格と教育科目

儒臣による家塾教育

藩校の開設

二 藩校の教育

文武学校の定

コラム・明倫堂掲示、演武場掲示

入学資格と教育科目

和漢学の学習

習礼

祭神と儀式

学業の吟味 教職員組織

肝煎のつとめ 明倫堂学則

江戸藩邸の学問所

三 幕末・維新期の教育

文久年間の藩校改革

幼生寮

鐘美館

維新期の文武学校

コラム・上田藩・県学校の絵図

学校施設と教則	専門学の講習	洋学寮・医学寮	学校書籍	遊学生	貢進生	海外留学生
上田藩分校の今里郷饗						
<b>第二節 寺子屋の教育</b>						
一 寺子屋のはじまりと普及						25
私塾・寺子屋・手習い師匠	寺子屋のはじまり	寺子屋の普及	上田藩領内の家塾・寺子屋			
二 寺子屋の師匠と門人						
(1) 師匠と謝礼						
師匠の身分職業	師匠の学識と教養	束脩と謝儀				
(2) 寺院の寺子屋						
手習弟子の入門	初登山	千余人の弟子を育てた活文禪師				
(3) 町の寺子屋						
上田の町の寺子屋師匠	海風堂塾	往時雜記にみられる町の寺子屋				
(4) 村の寺子屋						
家訓と手習い学問のすすめ	広い地域から集まつた門人	名づけ親の手習師匠				
(5) 筆塚の建立	奉納額と師匠					
三 寺子屋の教育						
學習年限とけいこ時間	學習内容	手習本と往来物	上田往来			
四 寺子屋の廃業						
県の通達						
寺子屋の廃業						

## 第二章 明治時代の学校教育

### 明治期の教育

#### 第一節 近代教育のはじまり

##### 一 「学制」の発布

教育を国が進める仕組みへ 文部省設置

「学制」の発布 「学制」の内容

第六大学区第十六中学区第五番小学 コラム・旧長野県

学区取締と学校世話方

学校運営費の負担

「学制」実施の手順と遅れ

重い負担 高い就学率

低かった女子の就学率

##### 二 教育令とその改正

新しい教育令とその骨子 小学校教育の後退

教育令を一年で改正

##### 三 上田における明治初期の学校教育

###### (1) 初等教育

教育沿革史編纂 取調委員の選抜 上田市域の小学校

第一番小学松平学校 北国巡幸

第二番小学上田街学校 修道学校

###### (2) 中等教育

上田変則中学校 変則とは 小県郡小県中学校 長野県中学校上田分校

(3) 教員・教員養成

講習所 師範講習所予科學校 長野縣師範學校 景況な講習会

#### 第二節 制度を整え国を興す教育へ

##### 一 整う制度と教育勅語

教育を国が榮えるために	徳育の混乱	教育勅語の公布	コラム・教育ニ闘スル勅語
道徳は国民の塩	徳目主義	明けても暮れてもヘルバート	祝祭日の儀式
母ハ家庭ノ訓導			教科書は認可から検定へ
二 上田における明治中期の学校教育			
(1) 初等教育			
責任から義務へ	上田学校	郡立高等小学校	上田尋常小学校女子部
女子部校の焼失		豊里殿城尋常小学校	子守学校
中等教育		上田慈善会	上田補修義校
中等教育の役割	上田支校から上田中学校へ	小県蚕業学校	各種学校の設立
三 教員・教員養成			
四 師範学校			
五 通俗教育			
成人対象の通俗教育			
第三節 充実する制度と教育の拡充			
一 充実する制度			
(1) 義務教育の徹底			
義務教育年限四年から六年へ			
専門学校卒業後の専門学校			
(2) 中等学校卒業後の専門学校			
(3) 教育制度の充実			

勅令や省令による制度の充実 学校医の設置と健康管理

二 上田における明治後期の学校教育

(1) 初等教育

① 幼稚園

私立梅花幼稚園 常田幼稚園

② 小学校

尋常科六年・高等科二年へ 小県郡上田男子尋常高等小学校 小県郡上田女子尋常高等小学校

豊里殿城尋常高等学校

(2) 中等・専門教育

① 中学校

中等教育 長野県上田中学校

② 高等女学校

上田高等女学校設立の動き 上田高等女学校 本科三学年編入制度 上田実科高等女学校

③ 実業学校

小県蚕業学校

④ 専門学校

上田蚕糸専門学校

⑤ 各種の学校

小県郡上田女子技芸学校

(3) 教員・教員養成

講習科 中途で取消しの上田女子師範学校 小県郡私立保母伝習所

## 第三章 大正時代の学校教育

大正期の教育	107
第一節 大正期の教育改革	107
一 今までの教育の総点検	107
臨時教育会議	107
二 教育の整備充実	108
(1) 小学校教育について	108
児童に即した学校方針	108
上田市尋常高等小学校	108
幼稚園の制度化	108
(2) 高まる進学熱	108
中等教育の拡大	109
小県蚕業学校の移転	109
長野県立上田高等女学校	109
上田実科高等女学校	109
(3) 実業補習学校	109
塩田公民学校	109
各種学校の設立と進展	109
(4) 上田裁縫女学校	110
大原簿記学校	110
上田市立上田盲学校	110
高等教育の拡大と選抜	110
(5) 上田蚕糸専門学校	111
女子師範学校の上田移転問題	111
義務教育の改善振興	111
義務教育の改善振興	111
(6) 義務教育費国庫負担法	112
三 生活に近づけた教科書	112
国定教科書の修正	112
「ハナ」「ハト マメ マス」	112
国際性と国家的色調と	112
児童の生活や活動を大事に	113
	113
生活に近づけた教科書	114
国定教科書の修正	114
「ハナ」「ハト マメ マス」	114
国際性と国家的色調と	114
児童の生活や活動を大事に	115
	115

#### 四 学校制度と改革の指針

義務教育年限の延長問題　革命の広がりをおさえるには

教練と天皇中心の教育を

#### 第二節 自由主義教育の運動

信州教育の誇り

- 一 人格を磨く……………120
- 二 東西南北会……………121
- 三 個性と人類愛と……………121
- 四 生活の中から……………122
- 五 白樺教育運動……………122
- 六 附属小学校に研究学級創設……………122
- 七 四自分……………122
- 八 児童自由画教育運動　山本鼎が蒔いた二つの種　コラム・山本鼎先生顕彰碑　児童自由画展覧会……………122
- 九 無手本主義　自由画教育の広がり　児童文化運動の高まり……………122

### 第四章 昭和時代の学校教育

昭和期の教育……………131

#### 第一節 昭和前期の教育

- 一 経済不況下の教育……………131
- 二 大恐慌の影響　教員給与の引き下げ運動　同盟休校のなかでの児童　学校は廃墟の如く……………131
- 三 教員は給料の一割を寄附　教育愛に殉じた教育者　コラム・小菅武夫訓導の殉職　欠食児童の救濟……………131

## ヨクマナビヨクアソベ 二・四事件—新興教育への弾圧

## 二 戦時体制へ移りゆく教育

## (1) 軍国主義の台頭

郷土教育運動

「八紘一宇」の聖戰

一途に戦争拡大

奉安殿の建設

## (2) 青年学校

青年学校の設置

青年学校の軍事教練

## (3) 色刷りの教科書

きれいだなあ 児童の心理と生活を重視

軍事的色彩の教材

国家主義思想を反映した内容

国旗と國家

## 三 戦時体制下の教育

## (1) 皇国民育成のための学校制度へ

皇国民の育成

青年学校と男子義務制

中等学校の改革

修業年限の短縮

## (2) 学校の改革と整備

上田繊維専門学校

上田商工学校 梅花・常田幼稚園

青年師範学校の創設

## (3) 国民学校制度の実施

基礎的鍛成 鍛成という考え方を基本に

非常時下的鍛成

## (4) 戰時版教科書

テキノタマガ雨ノヤウニ 日本ヨイ国強イ国

ヘイタイサン ススメ ススメ

神国日本の歴史

日出づる国日本

## (5) 拓務訓練と満蒙開拓青年義勇軍の送出

満州移民の奨励 身命をかけて国のために

拓殖訓練の実施要項 上田小県の拓殖訓練

## 四 決戦非常時下的教育

太平洋戦争勃発 決戦下の組織と教育の統制

学童集団疎開

食糧難のなかで

心のふるさと学童疎開地 報国隊の組織と勤労動員 国内各地へ動員校舎は軍需工場  
学校での授業停止

## 第二節 昭和後期の教育

### 一 学制改革と新教育への転換

#### (1) 新学制の実施

新日本建設の教育方針 墨塗りの教科書 学制の改革 新制中学校の出発 新制高等学校の出発

新制大学の開校

新学制の定着

#### (2) 新教育の発足とその発展

新教育の理念 新しい形の授業はじまる 新しい教科書の検定と採択 教育方法の変化

教育課程の編成と教師の研修

#### (3) 教育行政の民主化

教育委員会制度

### 二 幼児教育と義務教育

#### (1) 幼児教育の進展

幼稚園の発展 上田市幼年教育研究会

#### (2) 小学校

社会科・家庭科・自由研究の誕生 児童指導要録 学習指導要領 新学制当初の小学校

上田南小学校の開校

#### (3) 中学校

中学校の新教育課程 特別教育活動と体育競技の大会 新制中学校の発足 第四中学校の開校

第五中学校の開校

#### (4) 盲・ろう・自律教育

(5) 自律学級の開設 上田養護学校の開校	184
学校同和教育	
学校同和教育始まる 解放子ども会の発足 実態に合わせた学校同和教育	
三 高等学校と大学	
(1) 新制高等学校	
新制高等学校の発足 上田市の高等学校 教育課程と各学校の課程編成 生徒会・クラブ活動	185
入学志望者の増減と生徒数 高校通学区制の変遷	185
(2) 大学・短期大学	
大学の発足と概況 信州大学織維学部 長野大学 上田女子短期大学	189
四 教育関係団体の活躍	
(1) 小県上田教育会	192
小県上田教育会の沿革 教育会の主な事業 菅平夏期大学	192
(2) 教職員組合の結成と活動	
教職員組合の結成と活動	193
教職員組合の結成	193
(3) PTAの成立と活動	
父兄会からPTAの成立 PTA活動	194

## 第五章 平成時代初期の学校教育

昭和から平成への教育

### 第一節 平成初期の学校

一 学校の概況

(1) 義務教育.....	201
(2) 人口の増減にあわせて 高校教育.....	202
第四通学区.....	203
(3) 大学・短期大学・専門学校.....	203
各地から集まる大学生.....	203
二 新しい学校の開校.....	203
(1) 塩田西小学校.....	203
タワーのある学校.....	203
(2) 上田第一中学校.....	204
新たな教育プログラムに対応した校舎 長野県工科短期大学校.....	205
(3) 最先端の技術を習得.....	205
第二節 教育への警鐘 .....	206
一 学校が抱える諸問題.....	206
問題を抱える学校.....	206
(1) 忙しい子どもたち.....	207
時代とともに 社会性の不足や倫理観の問題.....	207
(2) 寂しい子どもたち.....	207
学校生活をめぐる問題.....	208
学校生活への満足度.....	208

(4) 増える外国籍児童生徒	208
外国籍の子どもたち	
(5) 親の価値観の変化	209
しつけはどこが	
(6) 忙しい教師たち	209
忙しい教師たち	
二 学校教育の課題	210
学校は楽しくなければ	
三 新しい人間の創造をめざして	211
(1) より開かれた学校へ	211
学校を開く	
(2) 地域の教育力との連携の中で	212
地域で体験を	
執筆分担	
資料提供者・協力者	
参考文献	
あとがき	
上田市誌の編さん組織	
『上田市誌』全三一冊の編成と書名	
表紙写真	
上田市立浦里小学校の校舎（現本館）。大正十三年（一九二四）に、建築費二万円で建設され、現在も使用されている上田市の学校の中では最も古い校舎です	
この校舎本館のろうか正面には、山岡鉄舟の書いた「浦野学校」の門札が掲げられていて、学校の歴史がしのばれます	
山本 鼎の提唱による自由画教育の作品	
右上 神川尋常高等小学校尋常科四年生土肥幹夫・絵（昭和十二年） 左下 神川尋常高等小学校高等科一年生西沢一平・絵（昭和十二年） （神川小学校『学道九十年』から）	
裏表紙写真	